

人・物が行き交う街道（東山道・善光寺道）

当地域は古代より人の交流が盛んであった。その証拠として、平安時代の官道である「東山道」が通っていた。戦国時代には「善光寺道」（北国西脇往還）、桑原宿が整備され人・物の往来が盛んにおこなわれており、現在も国道・高速道路・鉄道が通過する重要な地域であり、そのことを物語っております。以下順を追って昔の古道について語ることにいたします。

東山道（東山道支道）

京の都より美濃の国を過ぎ神坂峠を越え信濃へ入り伊那谷（天竜川）を北上して覚志駅家（松本地域）より錦織駅家（岡田地域）で浦野駅家（青木村）・信濃国分寺・長倉駅家（軽井沢）・坂本駅家（群馬県）への道が東山道であり、錦織駅家から麻績駅家・亘理駅家・多古駅家（長野地域）経由越後（上越地域）へ向かう道を東山道支道（東山道信濃路）といいます。

ここでは、千曲市区間を詳しく述べることにいたします。

①麻績駅家より麻績神明宮・松場（大吉原神社）・生金・古峠に至る街道が最初のルートと思われます。古峠からの善光寺平の眺めは素晴らしく昔の旅人も暫し見とれたことでしょう。古峠より、わたくぼ・ゆずり葉遺跡・御麓・和合遺跡・双子塚古墳・八日市場へのルートをたどったと思われます、②のルートは、生金で古峠ルートと別れ、大野田・一本松峠遺跡・大池・姨捨・八日市場へ向かうルートであり、坂井村の人々が八幡のお八幡様へのお参りで最近まで利用していました。③のルートは、麻績駅家から猿ヶ馬場峠を超え善光寺街道に沿って下り、平坦な少し広い四つ角に出ます、この場所がの

ぞきであります。現在は周囲が杉の木で囲まれています。昔は周囲が田畑で覆われ善光寺平が一望出来たことから「のぞき」の地名で呼ばれたと伝えられております。ここから姨捨方面へ少し行くと左に下る道があり、現在は電力会社の巡回道路として利用されておりますが、この道が古道であります。中村川に沿って下り平沢の池に出て、高速道路をくぐり、大岩付近の上平沢遺跡（縄文時代の住居跡）を通過して鉄道線路を渡り中原神社へ出ます。古い中原集落はこの中原神社付近にありましたが、元禄のころ現在の善光寺街道へ移ったと思われ。ここからまっすぐ下り、中沢川を渡り、善光寺街道と合流して佐野川を渡るのが③のルートであります。①、②ルートが八日市場で一緒になって・斎森神社・社宮司遺跡・郡（更級郡役所と思われる）で③と一緒に・治田神社（上宮）・後安・龍洞院・塚穴古墳・越将軍塚・長谷寺・川柳将軍塚・善光寺・越後国府へむかっていたと考えられます。

①②③ルートは時代と共に移り変わり重要度が変化したと思われ。ルート沿いには当時の遺跡が多く残っています。また平安の都人の憧れの地であったことから、和歌にも多く歌われております。なお、③は善光寺街道とほぼ同じルートでありますので、次の善光寺街道で詳しく説明します。

善光寺街道（北国西脇往還）

善光寺街道は、慶長五年（一六〇〇）関ヶ原の合戦に勝った徳川家康の制定した、東海道と中山道、それに次ぐ奥州・日光・甲州などの五街道の成立の後を追うように誕生し、宿制の機能をはたし始めたものと思われ。

中山道洗馬宿から分岐し、西国をはじめとする全国の善男善女の通行で賑

わう純然たる参詣道でありました。松本市がその中心で、大体いまのJR篠ノ井線に沿う、延長二十里半、約八十キロの山間の街道が善光寺街道であります。(篠ノ井追分で北国街道と合流、厳密には洗馬から篠ノ井追分までが善光寺街道である)

(間の宿)を含む宿場は、洗馬・郷原・村井・(出川)・松本・岡田・刈谷原・会田・(乱橋)・(西条)・青柳・麻績・(桑原)・稻荷山・(篠ノ井追分)・丹波島・善光寺の十七宿であります。麻績宿から猿ケ馬場峠・桑原宿・稻荷山宿までを詳しく述べることにします。

麻績宿は、古くから開けた地域であり、渡来人が定着して麻をつむぐ技術を広め伝え、松本城主小笠原秀政により、宿駅として整備された。猿ケ馬場峠の入口として、古より参詣者で賑わった。

麻績宿を後に、峠道を登ること一時間半ほどでお仙の茶屋跡に到着、池の傍に芭蕉句碑、付近に地域の人が自作の句碑を建てた句碑群を見ながら十分ほどで聖湖(旧名は夜ガ池)を右手に見て千曲市側へ、国道四〇三号線、林道、善光寺街道がそれぞれ分離していることから、街道の面影が残っており、ここからが、昔の旅人を偲びながら歩くのに相応しい区間であります。古道は水の流れて浸食され道路の真ん中が掘れて、歩きにくい部分もあり、毎年整備しておりますが、草刈をするのが精いっぱい状況です。史跡として、馬が横たわる姿の念仏石(往時の旅人は峠を超え善光寺を遥拝、旅の疲れも忘れ思わず念仏を唱えた)・長年にわたり麻績との村境争いの場所に建てられた馬塚・善光寺名所図会に表記のサルトビ池・旅人の安全を守るため真田藩

から三千坪を与えられ、その役目を果たした茶屋群・道しるべの一里塚・のぞき（東山道支道分かれ道）・馬が旅装を整えたクツ打ち場・修験者が諸国の道場や霊地で修業し、帰国後の記念に設置した開国供養塔・行倒れ人を供養した無人墓地・旅人の安全を見守った山寺開眼寺を右に見て、猿ヶ馬場峠入口として大切な役割を背負った中原集落へと一気に下りますが、ところどころ林道として利用され、現在舗装もされ土の古道が少なくなり残念です。中原で国道四〇三号線と合流して、右手に七曲の松のある千曲市内唯一の酒造会社（長野銘醸）を見ながら一路まっすぐ下り、佐野川の手前で右からの東山道支道と合流し、村境の道祖神を右手に見て佐野川の橋を渡り、左手奥に馬頭観音、街道沿いに庚申塔を見て進みます。ここが桑原宿の入口のカギの手であり、口止め番所があった場所を過ぎ昔の宿場の雰囲気が残る街並みを通過しますが、現代風の住宅に建て替えられて宿場の雰囲気は薄れております。車社会となり、東区の柳沢家は以前西を正面に構えており街道を遮る様になっており、街道が右へカギの手に折れていましたが、昭和四十年代頃に現在の様に移転し道路が真っ直ぐとなり、宿場の防御の役割を終え、現在の車社会の考えに合わせ時代の変化を感じます。

佐野川に沿った道路をまっすぐ下り、一里山、桑原小路を抜け稲荷山宿へ到着、ここは、稲荷山宿の南端にあたり、「右西京街道 左八幡宮道」の大きな道標に出会います、ここが稲荷山宿であります。

参考文献 信濃の東山道（長野県文化財保護協会）

東山道支道・善光寺道の街道概略図

